

11月4日は「ユネスコ憲章の日」です。1946年のこの日、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が誕生しました。ユネスコは、教育・科学・文化を通じて世界の平和を築くことを目的にした国連の専門機関で、本部はフランスのパリにあります。

ユネスコ憲章の前文には、こんな有名な一文があります。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならぬ。」この言葉には、「争いをなくすには、まず人の心を育てることが大切だ」というメッセージが込められています。ユネスコはその理念のもとに、教育支援や識字率向上、世界遺産や記憶遺産の保護など、幅広い活動を行っています。

ニュースや旅行先で「ユネスコ世界遺産」という言葉を見かけることが多いですが、その背景には「人類の知恵や文化を守り、未来へ伝える」という思いがあります。

この「ユネスコ憲章の日」に、改めて教育や文化の力に目を向けてみませんか。私たち一人ひとりの小さな関心が、平和をつくる第一歩になるかもしれません。

▼ INDEX ▼

【技術関連情報】

【関連製品紹介】

【お知らせ】

- ・GX
- ・脱酸素関連レーザー機器
- ・新技術創出 交流会 2025』のご来場御礼
- ・練馬産業見本市のご来場御礼
- ・ハイウェイテクノフェア2025のご来場御礼

■技術関連情報■

GX

GXとは、「Green Transformation（グリーン・トランジション）」の略で、環境保護からグリーンと呼ばれ、これまでの化石燃料中心の社会から、CO₂を排出しないクリーンエネルギー中心の社会へ転換することを意味します。化石燃料（石油・石炭・天然ガスなど）は燃やすと温室効果ガスを発生させますが、太陽光・風力・水力などの再生可能エネルギーは、環境にやさしいクリーンなエネルギーです。

GXの要となるのが「脱炭素」です。脱炭素とは、地球温暖化の主な原因である温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることです。

CO₂をできるだけ減らし、残った分を森林などによる吸収で打ち消す取り組みを行い、排出量の差し引きをゼロにします。

この状態を「カーボンニュートラル」と呼び、実現した社会が「脱炭素社会」です。

「脱炭素」と「GX」は混同されがちですが、両者は少し異なります。

脱炭素が温室効果ガスを減らすことそのものを目的とするのに対し、GXはその先にある「持続可能な経済成長」までを見据えています。

つまり、GXとは脱炭素を土台に産業構造や社会の仕組みそのものを変革しながら環境と経済の両立を目指す取り組みなのです。

日本政府は2050年のカーボンニュートラル実現に向け、GXを成長戦略の柱に掲げています。

世界ではすでに100以上の国・地域が同じ目標を表明しており、環境に配慮した企業活動やESG（環境・社会・ガバナンス）投資の拡大も進んでいます。

GXは私たち一人ひとりの生活や仕事とも深く関わるテーマになっています。

身近なところから環境への意識を高め、持続可能な社会づくりに貢献していきましょう。

グリーン・トランジション（経済産業省）

https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/index.html

GXとは？（GX Media）

<https://go-gx.com/media/003/>

知っておきたい経済の基礎知識～GXって何？(経済産業省 METI Journal ONLINE)
<https://journal.meti.go.jp/p/25136/>

(菊地原)

■関連製品情報■

脱炭素関連レーザー機器

本文でも紹介の様に再生可能エネルギー機器の需要が増しているので製造に関わるレーザー機器や、稼働している機器のメンテなどでレーザーセンサが使用されています。

また製造では従来の工法からレーザーに置き換えることによってCO2の低減が図れますし、レーザー自体が高効率の為に照明などによっても脱炭素に貢献できます。

更に現在注目されているレーザー核融合が実用化されれば、発電に関して大幅なCO2の低減が見込まれます。

こんなことがレーザーでできないか、これをレーザーで測れないかなどございましたらお問い合わせください。

受託開発、 OEM供給

<https://www.alt.co.jp/entrusted-development>

■お知らせ■

10月の展示会のご来場御礼

★『新技術創出 交流会 2025』のご来場御礼

★練馬産業見本市のご来場御礼

★ハイウェイテクノフェア2025のご来場御礼

各展示会において当社ブースに多くの方々にお立寄りいただきました。

尚、混雑したブース内で十分にご説明・ご紹介ができないケースもあったかと思われます。

ご質問、ご意見、デモ機貸し出し等ございましたらお気軽にお問い合わせください。